

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	じゅんてんこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	学校法人順天学園 順天高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制 普通科 825名	
普通科	40	40	40	—	120	*④は年次進行で、かつ対象とするクラスも順次拡大するため、指定5年目に全校生徒対象	
⑥研究開発構想名	グローバル社会で主体的に活躍する人材育成のための研究開発						
⑦研究開発の概要	アジア・太平洋地域における様々なネットワークを活かして、グローバルな社会課題に対応する教育的支援プロジェクトの実践的研究を中心に、共同的なネットワーク、統合的なスクールワーク、創造的なフィールドワークによる探究学習を研究開発する。						
⑧ 研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校の教育目標「英知をもって国際社会で活躍する人間を育成する」の下、グローバルな課題を海外の高校や大学などと連携して、共同的、統合的に探求し、創造的に解決しようとする探求学習の関係や方法、機会をこれまでの枠組みを超えて構築する。それらを通して、グローバル社会で主体的に活躍する資質の向上や人材育成をめざす。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>多くの国際教育活動プログラムや海外の高校、国内外の大学・NPOなどとの関係を保有しているが、これらが有機的に関連した共同的な学びにはなっていない。グローバルな社会課題解決には、多様な国際社会と言葉を交わし、多面的な視点を共有していく共同的作業が欠かせない。そこで、ネットワークによる共同的な探究学習を開発する。</p> <p>また、総合学習でのテーマ研究や学級のLHR・グループコミュニケーション、学校行事としての海外研修など、様々な探究的学習を展開しているが、これらが有機的に関連して、統合的な学びになっていない。そこで、スクールワークとして統合的に行う探究学習を開発し、学校全体としての教育成果や教育機能の向上を期したい。</p> <p>さらにまた、海外研修旅行における交流活動や探究活動も基本的に一過性の体験であり、将来のキャリアにおいてグローバル社会での活躍を志向するような、創造的な学びになっているとは言えない。そこで、海外の生徒と共同でグローバルな社会課題を実践的に解決しようとする、フィールドワークによる探究学習を開発する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>研究開発では極力主体的な探究活動をめざして、SGH対象生徒のコアとなるユニット（GLAP）を創設し、順次、全校に拡大していく。またSGHの成果を、国内外のアカデミックな大学との高大連携の拡大につなげていき、将来的には日本の高校生や大学生が国際社会貢献活動として取り組めるギャップターム・イヤーの基盤構築をめざして、国際系の各大学や国際的なNPO機関、国際的な企業などとの連携を図っていく。</p>					
		⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>グローバルな社会課題として、経済的格差による貧困問題等があるが、その根本的解決には一般に教育水準の向上が期待されていることを背景に「アジア・太平洋地域における教育的支援プロジェクトの実践的研究」として取り組む。具体的な研究テーマとしては、以下の様な事項が想定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学意識の向上改善に資する教育的支援活動</li> <li>・公衆衛生の改善啓発に関する教育的支援活動</li> <li>・自然災害や環境保全に対する教育的支援活動</li> </ul> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>課題研究の実施に当たって、海外連携校との共同の事前学習や、校内での総合的学習</p>				

		<p>などを経て、英語生活圏であるフィリピンでの海外フィールドワークを想定している。そこで、課題研究を3段階の研究開発区分にしたがって重層的に実施して、その成果を検証評価する。</p> <p>1、ネットワークによる共同的な探究学習  海外の交流校と共同で、グローバルな社会課題に関する英語の資料教材を製作する。生徒自身が考えた視点や解決に向けた提案等を共有することが基本である。その際、格差問題等に対応する教育的支援プロジェクトの構想を描いていくことを重視する。  ネットワークを用いて生徒自身がそれらを創っていくプロセスがどのように構築されたか、共同作業によって得られた各種の資料教材などを、検証評価する。</p> <p>2、スクールワークによる統合的な探究学習  グローバルな社会課題に対する国際理解・国際協力・海外研修などの多面的なワークショップを、総合的学習の時間に、英語教材等も用いて統合的な探究学習として実施する。  連携関係機関の協力の下で行うワークショップを通して、実践的な社会貢献活動への意欲が高まっているかなど、ワークショップの実施者や生徒本人の意識調査、ワークシートの成果物などによって検証する。</p> <p>3、フィールドワークによる創造的な探究学習  グローバルな社会課題に対応するための、フィールドの状況理解、問題の構造の分析、課題に直面する当事者などとの関係づくりなど、広範な視点を踏まえて、問題解決に向けた創造的なアプローチを試みる。  海外でのボランティア活動と重なるフィールドワークでは、交流活動や社会貢献活動を行うこと自体が人間的成長などの意義を生み出す。それらは実施後の満足度調査などでも十分に期待できるが、さらに海外の生徒などと連携して活動ができたか、英語による教育支援活動はどのように行うことができたか、それらによって共同性や創造性を育むことができたかなどを、ヒアリングなどにより検証する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>  特例の適用を予定していない。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>  英語によるグローバルな社会課題に関する資料教材の開発や、英語や日本語によるコミュニケーションスキルの向上、全教科における双方向授業やアクティブラーニングなどの教育手法による研究発表を推進する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>  特例の適用を予定していない。</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実組内容・実施方法</b>  帰国生徒の受入れを、高校で現在より50%増の75名程度に、外国人生徒の受入れを10名程度に増加させる。また帰国生相互の支援をする組織により、外国人留学生やギャップイヤーの英国人学生などと共に、校内のグローバルイベントを活性化させる。  初年度にSGHの対象となる英語系クラス（Eクラス）ではすでに、英語によるアカデミックなワークショップやプレゼンテーションを実施している。さらに5年後には全校生徒がSGH対象生徒になるが、学校全体の英語によるスピーチコンテストをディベート・プレゼンテーション型に転換してしていく。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>特に無し</p>

ふりがな	じゅんがくえん じゅんてんこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	学校法人順天学園 順天高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							100人
	SGH対象生徒以外:		45人	51人				0人
目標設定の考え方: 現在、全員が年1回以上の社会貢献活動をしており、とくに多数回の自主活動をする者とした。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							12人
	SGH対象生徒以外:		5人	8人				0人
目標設定の考え方: 現在すでに、生徒の75%以上が自主選択で海外研修に参加するので、留学する者のみとした。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							20%
	SGH対象生徒以外:		10%	10%				0%
目標設定の考え方: 現在は英語系クラスの生徒に多いが、30年度で全員がSGH対象生徒となる効果を見込む。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							10人
	SGH対象生徒以外:		5人	5人				0人
目標設定の考え方: SGHでの活動波及効果と共に、入賞者の増加見込み。30年度で全員がSGHの対象になる。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							70%
	SGH対象生徒以外:		39%	36%				0%
目標設定の考え方: 現在、卒業生の約35%が英検2級以上を取得。初期のSGH生は入学時に2級取得者が多い。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:								30%
	SGH対象生徒以外:	5%	5%						0%
目標設定の考え方: 30年度以降、全員がSGH対象者であり、国際系学部や学科への進学する割合とした。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:								12人
	SGH対象生徒以外:	2人	2人						0人
目標設定の考え方: 30年度以降、全員がSGH対象者であるが、SGH以外の生徒で台湾に進学する者も含む。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								30%
	SGH対象生徒以外:	-	-						0%
目標設定の考え方: 30年度以降、全員がSGH対象者であり、課題研究の影響は定常的になる見込み。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								40人
	SGH対象生徒以外:	-	-						0人
目標設定の考え方: 30年度以降、全員がSGH対象者。殆どの者が海外研修はすると思われるので、留学者の見込み。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	28人	30人						50人
目標設定の考え方: 課題研究に関わる五か国以上のフィールド視察や国際研修会議などの参加者数。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	30人	30人						100人
目標設定の考え方: 双方向授業の研修会やICTの活用に関する研修、国際研修などの参加人員を見込む。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	5校	5校						10校
目標設定の考え方: 海外の連携大学を3校程度に、海外の連携高校を7校程度に増加させる。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	8人	16人						45人
目標設定の考え方: 現在は校内ワークショップに参画している延べ回数。26年度以降はワークショップの開催が急増する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	6人	10人						35人
目標設定の考え方: 現在は国際関係NPOが多いが、海外の公的機関や国際的企業の支援も増加させる見込み。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	10人	13人						20人
目標設定の考え方: 現在は10名程度であるが、より多くの機会をとらえて、人員を倍増させる見込み。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	59人	61人						85人
目標設定の考え方: 帰国生徒は現在の50名程度から75名以上、留学生の受入・派遣は現在の5名から10名程度にする。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	3回						10回
目標設定の考え方: 校外での発表の機会企画型を含めて、10回程度の発表をめざすことになる。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 平成26年度前半に、英語によるHPを開設する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	841	825					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							